

人生においては、客観的な意味での成功者、非成功者、失敗者がいます。日本経済新聞の「私の履歴書」を読んでいると、成功者のすべてが「あの時、この人との出会いがなければ」「あの時、あの出来事がなければ」「あの時、あの意思決定がなければ」…等の「あの時が現在の自分が歩んだ道の原点であり、成功の源である」ということを述べています。逆に言えば、「あの時、それがなければ!!」今の自分はないということです。

人々の人生を決めたポイントとなる出来事によって、その後の人生は、良い方向へ行ったか悪い方向へ行ったかは別として、大きく変化しています。これを「**人生の転換点出来事**」と呼びます。そういう風に考えるならば、人生には「**リアル人生**」(現実に生きてきた人生)と「**バーチャル人生**」(人生の転換点出来事によって異なった道を歩んだと思われる人生)の2つの人生があります(六車流：流通理論)。このリアル人生とバーチャル人生の差は、実は紙一重なのです。すなわち、人生の転換点出来事によって、人生の成功・失敗は決まっているとも言えます。

偉大なる神が存在するならば、人々が生き・生活する様を見ている中で、「あの時、あの人がああしなかったら、こうなっていたらというバーチャル人生」を偉大なる神は知ることができます。身近な例で言えば、「あの時、宝くじを買っていれば当たっていたのに!!」であるとか、「もう1分早く来ていれば、あるいはもう1人前であれば、宝くじが当たっていたのに!!」ということを知っているわけです。

それゆえに、成功と失敗の人生の差は紙一重であり、逆に言うと、現在の成功者は人生の転換点出来事における紙一重の差で失敗し、また現在の非成功者・失敗者は、紙一重の差で成功者になることができたのです。これを「**人生のすれ違い現象**」と言い、「**誰もが実は、紙一重の差のすれ違いで成功者になれたはず**」なのです。

“運も実力のうち”という言葉がありますが、まさに、人生は運で決まることも多々あります。それでは、成功者は単に、運が良かったから成功したのでしょうか。確かに、そのような偶然性もありますが、人生の転換点出来事(運)をチャンスとして物にする人とできない人がいます。偉大なる神が「あの時ああすれば、偶然(運)を物にできたのに。残念だな!!」と思うことはいくつもあったと思います。また、1人の人生において、人生の転換点出来事は何度もあったはずです。そこで、人生の成功の極意に「運」「勘」「技」「根」があります。運とはもちろん偶然ですが、運を自分の物にするためには能力が必要です。極意では、その能力を「勘(今起こっている現象を瞬時に見抜く能力)」と「技(能)」(今起こっている現象を成果のある方向に導く能力)、「根(気)」(今起こっている現象を辛抱強く人事を尽くして天命を待つ能力)と言います。

それゆえに、1人の人生には多くの運としての転換点出来事が出現し、それを物にする能力(勘、技、根)がないと人生の成功者にはなれません。その意味において、「**人生は自分の能力で変えることができる**」ことも事実です。

人生は、未来から過去を見ると「人生はすべてリアル」であり、現在から未来を見ると「人生はすべてバーチャル」であり、現在から未来のバーチャルな人生を見ることを「希望」とか「夢」と表現します。多くの人は、「人生をもう一度やり直したい!!」とか「もう一度人生があったらなあ!!」と考えることがあると思います。

リアル人生とバーチャル人生に「時間」という要素を入れると、リアル現象(現実)とバーチャル現象(夢)を一緒にすることができます。また、人間の年齢に「活齡」(活躍できる年齢)の概念を導入すると、人生の再チャレンジの「時間」[バーチャル人生(夢・希望)をリアル人生(現実)に変える時間]が存在します。働く人のタイプ別活齡は、次の通りです。

働く人のタイプ	能力のタイプ	昔は(過去)	今は(現在)	今後は(未来)
スポーツ選手	体力	18~35歳(17年間)	18~40歳(+5歳)	18~45歳(さらに+5歳)
サラリーマン(OL)	才能	18~55歳(37年間)	18~60歳(+5歳)	18~70歳(さらに+10歳)
研究者	頭脳	23~65歳(42年間)	23~70歳(+5歳)	23~85歳(さらに+15歳)
生活者	感性	18~55歳(37年間)	15~65歳(+13歳)	12~80歳(さらに+18歳)

高齢化する日本の再生のために、活齡による国力アップが必要です。

(株)ダイナミックマーケティング社⁺
代表 六車 秀之